TSUNAGU

［繋ぐ］

Vol. 52
2022 AUTUMN

愛でる Special Issue:

手のぬくもりが創り出す ミニチュア立体アート

深める 持株会社制がスタート
会長 兼 CEOからのメッセージ

拓く 世界的な紙梱包資材メーカーと
代理店契約を締結

愛でる 紙を愛する匠たち
「KAMI-WAZA 紙ワザ」

手のぬくもりが創り出す ミニチュア立体アート

愛くるしい表情の人物や動物たちの日常の一コマを切り取ったやさしさに包まれた小さな世界。金沢和寛さんは、手のひらサイズの生き物だけでなく、樹木の枝葉、石畳といった街中の風景にいたるまで、すべて「紙」だけで表現する立体造形作家です。途方もない時間と手間をかけ、自らの「手」だけでつくり上げる金沢さんの作品には、観る人を幸せな気持ちにする不思議な魅力がたくさん詰まっています。

TSUNAGU

TSUNAGU 2022 Autumn

KPPグループホールディングスが発行するTSUNAGU（繋ぐ）は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

愛でる …… P01
手のぬくもりが創り出す
ミニチュア立体アート

PAPER TOPICS …… P06
「サステナブルファッションEXPO秋」に
「OJO（オージョ）+」ほかを出展

拓く …… P07
世界的な紙梱包資材メーカーと
代理店契約を締結

辿る …… P09
本の貸出履歴を“記帳”できる
内田洋行の「読書通帳」

伝える …… P11
カリスマ経営者から届いた
律儀で篤実（とくじつ）を表す葉書

深める …… P13
持株会社制がスタート
会長 兼 CEOからのメッセージ

訪ねる …… P15
新たなコミュニケーションを生み出す
注目のブックカフェにフォーカス

作る …… 付録
正月の風物詩
口がパクパクと動く「獅子舞オブジェ」

KAZUHIRO KANAZAWA ART WORKS

紙ならではの質感や柔らかさを表現する作品にこだわりたい。

手のひらに乗る手頃なサイズながら、細部にまでつくり込まれた精巧なミニチュア。滑らかな質感から粘土細工のようにも見えますが、材料に使われているのは「紙」のみ。金沢和寛さんは、和紙や段ボール、パッケージの厚紙などの身近な紙を使って、オリジナルの世界観を表現する立体造形作家です。多様な年代の人々や猫や鳥などの動物だけでなく、公園の樹木やベンチ、落ち葉や石畳といった、日常に溢れる風景まで、ミニチュアサイズでつくり上げていきます。金沢さんの作品のひとつに満開に咲く桜の木（右ページ中央）がありますが、これに使用する花びらは約1万個。フリーハンドで1枚ずつ紙を切り抜き、花びらの形に貼り付けていく作業には、実に5年の歳月を費やしたそうです。「もちろん他の作品づくりと並行したからそれだけの時間がかかりましたが、許される範囲で時間と手間をかけたいと思っています。決して効率的とは言えないけど、手でつくるからこその質感や柔らかさを表現できるので」と金沢さん。途方もない時間と緻密な作業の積み重ねによって生み出される作品は、間近で見れば見るほど感嘆のため息が出ます。

金沢さんが作品に使用する紙は、普段の生活に欠かせない一般的な紙が大半です。商品を梱包する段ボールや緩衝材として使われた包装紙、使用済みの封筒やパッケージの厚紙など、本来であれば捨てられるはずの廃棄物が中心。原料に戻して再利用するリサイクルではなく、不用になった紙そのものを生かしつつ別のかたちに生まれ変わらせる「アップサイクル」の考え方が反映されています。「和紙は例外ですが、それ以外の材料は要らなくなった紙ばかりですね。他の人があまりやっていないことだし、紙本来の質感や色味を生かすことで自分の世界観を表現できるんじゃないかと思ったんです。例えば、アマゾンの段ボールは少し赤みが強いし、同じトイレットペーパーでも国によって水溶性が変わってくるんです。自分で見つけた紙だけでなく、友人が海外で見つけてきてくれた紙など、紙への興味は尽きることはありません」と金沢さんは話します。

紙を素材としたペーパークラフトの多くは、紙を切り貼りして立体模型にするのが大半ですが、金沢さんの作品づくりはスタートが異なります。人物や動物などのフィギュアの場合、初めにティッシュペーパーに木工用ボンドを塗布したのち、手でこねて紙粘土のような具材を作成。胴体や頭部など大まかな形に成型したのち、薄くちぎった紙をピンセットで貼り合わせ、デザインナイフや細工棒、かぎべらや棒やすりを使って微細な部分に細工を施していきます。質感や色調の異なる小さな紙片を幾重にも貼り合わせてつ

制作工程

シャム猫の場合

ティッシュペーパーを広げ、等間隔に木工用ボンドを塗布する。

ティッシュペーパーを丸めたらよく捏ね、紙粘土のような状態にする。

大まかに成型したのち、ちぎったクラフト紙を貼り、色味を合わせる。

デザインナイフや細工棒などを使って、ディテールまで細工を施す。

質感の違う紙やマーカーペンで着色した紙を細かく千切って貼る。

デザインナイフで紙を掻いて毛羽立たせ、動物の毛並みを表現。

薄い紙をひねって紙捻（こよ）りにした髭を、1本ずつ貼り付け完成。

PAPER ART
by Kaz Kanazawa

制作工程の紹介動画は
YouTubeにてご覧いただけます。

PAPER TOPICS

最新のサステナビリティ製品・素材が一堂に会する「サステナブルファッションEXPO秋」に初出展

「第2回サステナブルファッションEXPO秋」
会　　期：10/18(火)～20(木)
会　　場：東京ビッグサイト
出 展 数：569社
来場者数：19,147人(FaW TOKYO 3日間合計)

10月18日から20日までの3日間にわたり、東京ビッグサイトにて開催された「第2回サステナブルファッションEXPO秋」に、当社グループの国際紙パルプ商事株式会社と王子ファイバー株式会社が共同出展しました。この展示会は、エコ、エシカルなど“サステナビリティ”を考慮した製品・素材を扱う569社が出展した日本最大のファッション展であり、当社グループはオーガニック100%の天然繊維からつくられる「かみのいとOJO(オージョ)+」などを出展。多くの方に肌触りや軽さを実感していただき、幅広い用途を知っていただく貴重な機会となりました。本コーナーでは、盛況となった展示会の様子をお届けします。

EXHIBITION

ブースの入口には、帽子から靴まで「かみのいと　OJO+」製の衣類で全身をコーディネートしたマネキンを設置。当社グループの紹介動画とともに、来場者の関心を惹いていました。また、ブース奥の床にはOJO+でつくられた人工芝が敷かれ、プラスチック製のものと遜色ない踏み心地と芝の抜けにくさを体感していただきました。ブース内では、紙の糸からできた作務衣やTシャツ、ジーンズを着用した当社グループ社員が、軽量さや伸縮性、ファッション性をアピール。そのほか、紙の比率が70%以上あり、脱プラスチックの潮流に合った製品である「紙製フェイスカバー」や梱包材、ハンガーなどを展示。紙製ハンガーにはOJO+製の衣類がかけられ、曲がりやしなりの無い使い心地に多くのお客さまが驚かれている様子でした。

SEMINAR

ブース展示と併せて「プロアスリートと作り手から見たOJO+靴下の魅力」をテーマにしたセミナーを開催。ものまねアスリート芸人・M高史さんがMCを務め、OJO+の靴下を製造している株式会社キタイの喜多智史専務と、二大会連続で五輪メダリストとなった有森裕子さんが、対談形式でOJO+の魅力を語られました。有森さんは現役時代から靴下を選ぶ際にはフィット感や心地よさにこだわっており、蒸れや臭いはランナーだけではなく、ビジネスマンにも共通すること、OJO+製の靴下は災害時の帰宅困難な状況にも活躍しそうではないか、といったスポーツ以外での新たな使い方の話などでも大いに盛り上がりました。

活況を呈したセミナーの様子

(左)当社グループ社長の栗原(右)有森裕子さん

NEXT ▶▶▶ 有森裕子さんと当社グループ会長の田辺による対談を実施し、本誌で掲載いたします。どうぞお楽しみに!

ほかの人には決して真似のできない、オリジナリティのある作品を追求する。

くる工程はもちろんのこと、糸のように細い紙捻(こよ)りをつくり1本ずつ貼付、カッターで紙を掻いて毛羽立たせるなど、緻密で繊細な作業を積み重ねることでひとつの作品が完成します。「僕のつくり方はすべて独学で習得したもの。誰かの真似はしたくないという思いがあって、オリジナリティを追求した結果、この手法にたどり着きました」。便利なデジタル機器に頼ることなく、手作業にこだわることに新たな価値を見出した金沢さん。独自性を追求する姿勢があるからこそ、観る人の心に響く作品が生まれるのです。

幼少期から絵画教室に通い、絵に親しんでいたという金沢さんは、高校を卒業したのちに美術大学に進学。在学中はプロダクトデザインを専攻し、生活器具などの作品づくりに取り組んでいたそうです。「和紙を使った照明器具をつくる課題があって、その時に触れた和紙の感触やちぎった時のふわっとした温かみが印象的でした。それが今の作品づくりの源泉になっているんだと思います」。

金沢さんは美術大学卒業後、デザイン事務所に就職。グラフィックデザイナーとして5年半活動していたものの、並行して続けていた創作活動の中で独自の手法にたどり着き、「これならいける」という確信を得たことで作家として生きていく決意を固めたそうです。個展や展示会に出展した作品は評判を呼び、出版社や制作会社から声がかかるようになります。「人物や動物のミニチュアだけでなく、その背景も含めてすべて紙でつくった作品をカレンダーのビジュアルに採用してもらいました。ストーリー性のある作品づくりが楽しいので、本の装丁など物語を補完するためのビジュアルとして使用してもらえたらうれしいですね」。

最後に、今後の抱負を聞いてみると、「かわいくないものとか、怖いものにも挑戦してみたいですね」という金沢さん。表現の幅を広げていく彼の作品に是非ご注目を。

下町情緒を感じさせる商店街の一角、築60年を経過したレトロな建物の2階にあるアトリエ。

使用するのは、最低限に絞り込んだ道具のみ。接着剤は、コニシ(株)の木工用ボンドを愛用。

銀杏の木に使用する葉のパーツ。フリーハンドで書いたものを印刷し、1枚ずつ切り抜いておく。

材料となる紙は、和紙、洋紙、板紙、トイレットペーパーなど、質感と色ごとに分類して保管。

金沢 和寛(かなざわ かずひろ)さん | 立体造形作家

1974年生まれ、愛知県出身。1998年京都精華大学ビジュアルコミュニケーションデザイン科卒業。グラフィックデザイナーとしての活動を経て、2003年から本格的に作家としての活動を開始。個展や展示イベントなどに出展した作品が話題を呼び、本の装丁や企業広告、カレンダー、CDジャケットなどに数多く起用される。オリジナル作品の創作だけでなく、企業、個人からのオーダーメイドにも対応するなど、幅広く活動中。
http://5cenchi.jugem.jp/

今後の出展予定 ■ 2023年1月21日(土)・22(日)・「HandMade In Japan Fes」東京ビッグサイト ／ ■ 2023年5月22日(月)～27日(土)・個展 スペースユイ(東京都港区)

ランパック社が提供する緩衝材ソリューション

（重量物用）緩衝材 01

輸送中の衝撃や振動を抑制し、製品の破損を防ぎます。緩衝性の高い専用紙とマシンによる特殊加工の組み合わせで、数十キロある製品でもしっかりと固定することができ、荷傷のリスクを最大限減らすことが可能です。自動車のエンジンの梱包などにも長年利用されており、非常に高い緩衝性があります。

隙間埋め 02

箱内部の隙間を埋め、製品を固定するために使用します。輸送中に製品が動いてしまうことによるダメージの減少と、専用紙が持つ高い緩衝効果により、破損リスクを低減できます。作業性の向上と環境負荷低減の両方を実現したサステナブルな製品です。Eコマースなどのビジネスを手掛けるお客さまに多く利用されています。

ラッピング 03

製品表面のすり傷や軽微な衝撃から中身を保護します。内容物をハニカム構造の紙緩衝材でラッピングすることで荷傷を防止するだけでなく、ラッピング後の包装も美しく仕上がるので、企業のブランディングとしても活用することが可能です。

保冷梱包 04

専用紙とマシンによる特殊加工によって、熱伝導を防ぐ紙製の緩衝材をつくることで、コールドチェーン用の優れた断熱材となり、発泡スチロールと同等の断熱性を発揮します。この紙製緩衝材はさまざまなサイズと梱包スタイルに対応することができます。発泡スチロールと比較し、保管スペースを大幅に削減することも可能です。

品質	プロセス改善	コスト削減	柔軟性
意匠性	梱包スピード向上	1箱あたりの資材コスト	ピークシーズンコントロール
緩衝能力向上（破損回避・返品回避）	プロセス改善	人件費	初期費用なし
脱プラ	出荷増		多種多様な製品に対応

お客さまの声

梱包現場は、人手不足・業務の標準化・繁忙期への対応・環境対応・内容物の破損などさまざまな課題を抱えています。ランパック社製品を実際にご利用されるお客さまからは、「ひと箱当たりの梱包時間が大幅に削減できたため、コスト削減だけでなく、出荷量を増やすことができた」、「マシンがレンタルでき、繁忙期だけ増設できるので助かる」、「新人作業員の作業水準が大幅に向上した」、「内容物の破損が減少した」などの声をいただいております。

持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介

KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社グループは経営理念である「循環型社会の実現」に基づき、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。

世界トップシェアを誇る紙梱包資材メーカー「ランパック社」と代理店契約を締結

当社グループはこの度、Ranpak B.V.（本社:オランダ・ヘーレン、マネージング・ダイレクター:エリック・ローレンス、以下、ランパック社）と販売代理店契約を締結しました。当社の連結子会社であるAntalis S.A.S.（本社:フランス・パリ）が、ランパック社の世界的な主要販売先であることや、さらには今後、紙の緩衝材需要が大きく高まることを見据えて、契約を締結することとなりました。

ランパック社は1972年に設立された紙梱包資材メーカーです。緩衝材をはじめとする紙の梱包材の販売や、緩衝材加工機の貸し出しによる提供を行っています。梱包に関わるソリューションを世界50ヵ国で提供する紙緩衝材のリーディングカンパニーであり、現在は31,000社以上に同社の製品が導入されています。

ランパック社が提供する紙は、すべて再生可能な素材でできています。また、森林の生物多様性と人権を守りながら適切に生産された製品に与えられるFSC®認証を取得しており、高い商品保護性と地球環境保護を両立した製品です。約50年にわたる事業のなかで400件以上の特許を取得しており、脱プラ・紙化が求められている昨今、率先して持続可能な未来づくりに貢献しています。

プラスチックによる海洋汚染問題を解決するために、世界127カ国が使い捨てプラスチックの製造、販売、使用および廃棄を規制する法律を制定するなど、社会環境は大きく変化しています。紙は再生可能資源からつくられており、梱包資材をプラスチックから紙にシフトすることで、持続可能な社会実現に貢献することができます。

MESSAGE

中村 昌史 さん

ランパック株式会社 セールスマネージャー

日本でも時代の要請である脱炭素の動きが顕著になってきました。弊社が属する物流業界でもサプライチェーンの再構築が進んでおり、持続可能な資材選択は各企業において具体的な見直しの段階に入っています。今日の物流加工現場では主にプラスチックや石油由来の緩衝材が使用されていますが、これらを紙などの環境に配慮した素材に代替えするという動きが顕著になってきました。一方、労働人口の減少という要因も物流業界の生産性を圧迫する要因となっており、これらに対する早急な解決策が求められています。弊社は物流現場における環境対応と生産性向上を同時に満たすことができるソリューションを提供しており、今日の外部環境下で大きな成長を遂げております。

■ランパック社に関する問合せ

国際紙パルプ商事株式会社
新事業開発本部
パッケージソリューション課

TEL ： 03-3542-4174
（受付：月～金／9:00～17:00）
MAIL ： kpp_packaging_solution@kpp-gr.com

メールでのお問い合わせはこちらから▶

テーマ

読書通帳

読んだ本の記録を一冊に“記帳”できる通帳サイズのペーパーツール

かつて、図書館の貸出サービスのツールとして「貸出カード」というカードが使用されていました。これは、本の最終ページに貼られたポケットに差し込んで使う縦長のカードで、本を借りる際には自分の名前や貸出日、返却予定日を書き込み、図書委員や司書さんに手渡すことで利用状況を管理していました。当時、貸出履歴に知っている名前を見つけては妙な親近感を抱いたり、本の好みが似ている見知らぬ誰かに思いを馳せたりしたものです。そんな貸出カードは利用者の記録が残るため、個人情報の観点からも廃止されコンピュータシステムによる貸出管理に移行。現在では交通系ICカードやスマートフォンでも貸出や予約ができる図書館が増えつつあります。

通帳に印字することのできる「読書通帳機」は、自立型（写真）とコンパクトモデルの2種類がある。写真は下松市立図書館。

ICT技術によって貸出サービスの利便性が高まるなか、子どもの読書意欲向上に効果のあるものとして全国的に注目を集めているのが「読書通帳」というツール。これは、預金通帳とほぼ同じサイズの通帳です。図書館に設置された専用端末に通すと貸出日・書名・著者名などが自動で印字され、自分の読書記録を管理できるというもの。読書履歴が貯まっていくことで達成感を得られるうえ、自分の読書の記録が手元に残る特別感から、大人気分を味わいたい児童から図書館の利用頻度の高いシニアまで幅広い世代に支持されている「読書通帳」。その魅力と活用事例について詳しくご紹介します。

UCHIDA 株式会社内田洋行

1910年創業。教育・公共機関への教育機器・教材・コンテンツの製造・販売をはじめとした「公共関連事業」、オフィス関連家具の製造・販売などの「オフィス関連事業」、民間企業・事業者向けの基幹業務などのコンピュータソフトウェアの開発・販売などを行う「情報関連事業」などを展開。

「読書通帳」に関する問合せ

株式会社内田洋行 ユビキタスライブラリー部
TEL：03-5634-6551
FAX：03-5634-6817
www.uchida.co.jp/public/dokushotsucho/

INTERVIEW

開発担当者にお伺いしました

株式会社内田洋行 八幡政秀 さん

「読書通帳」は2010年にスタートし、今年で12年目を迎えました。ベースとなるシステムは、韓国のパートナー企業が自国で展開していたもので、日本の子どもたちの読書推進や図書館利用の促進を目的に、日本の文化や制度を考慮して開発しました。しかし、日本では読書記録を残すこと自体、個人の思想や考え方を知るものとしてタブー視される風潮があり難色を示す方も多く、時には図書館の方に「犯罪的システムじゃないか」と言われたこともあったほどです。そんななか、山口県下関市立中央図書館様に初めて「読書通帳」を導入していただいたのですが、予想を上回る反響をいただきました。個人情報に準ずるものとして危惧される声があったものの、何より利用者の方が自分が楽しむために使いたいという意見が多く、2014年から一気に導入が拡大。現在では公共の図書館だけでなく、幼稚園や小学校をはじめとする学校を併せて、全国で約100台が稼働しています。元々は子どもたちをターゲットにスタートした「読書通帳」ですが、意外にもシニア世代の利用者様からの人気も高く、自分の読書の記録が手元に残り、一覧にできるツールとして広く受け入れられています。

銀行の預金通帳をモチーフにしているため、子どもたちにとっては大人文化を体験できるものとして、保護者の方にとっては我が子の興味・関心を知るツールとしても高い評価をいただいています。ただ、この「読書通帳」の真価が示されるのは数十年後。今の子どもたちが大人になって当時を振り返ったり、親になって我が子への読み聞かせの参考資料として活用していただけたらうれしい限りです。親子の会話だけでなく、子ども同士が互いに読んだ本を見せあったり、図書館の方と利用者の方の会話の糸口になったりと、この「読書通帳」がコミュニケーションツールとなることが本来の目的です。今後、図書館以外の公共施設や観光サービスと連携するなどICT技術を活用したシステムを拡充させることで、新たなつながりを生むきっかけづくりに貢献したいと思っています。

KEYWORD 1

「デザイン」

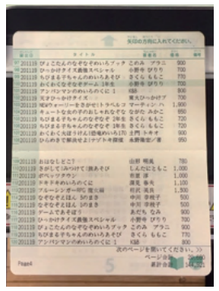
読書通帳はご当地アイテムのひとつ。ご当地キャラクターや地元出身作家の作品、地元の特産物のイラストなど、図書館や自治体の特性を反映したオリジナルデザインが印刷されています。

左上:愛知県安城市　右上:愛知県西尾市
左下:愛知県岡崎市　右下:富山県朝日町

KEYWORD 2

「印字内容」

表紙や裏表紙だけでなく、通帳の中面もオリジナルで制作することが可能。貸出日やタイトル、著者といった項目に加え、価格を追加することで本の価値をアピールすることもできます。そのほか読書活動の目標を記入できるページを設けるケースもあります。



西尾市立図書館

KEYWORD 4

「データ連携」

読書通帳には、学校の図書室で貸し出した本を、地域の図書館で印字する機能が搭載されています。両者の架け橋となることで図書館を利用する機会が増えるなど、子どもの読書環境の整備に貢献しています。

KEYWORD 5

「官民連携」

愛知県西尾市では官民連携事業として、西尾信用金庫が2万冊の読書通帳を寄贈。一杯になった「読書通帳」を持参すると口座に1,000円が入金された本物の預金通帳が進呈されます。

KEYWORD 3

「子育て支援」

子育て支援事業の一環として、「読書通帳」を進呈する自治体が増えています。山口県萩市では、母子手帳交付時に「絵本のあるくらし応援パック」を手渡すことで妊娠中からの声かけや読み聞かせを促し、その記録が残る読書通帳を子どもへのプレゼントにしてもらう取り組みを行っています。

山口県萩市立萩図書館の「絵本のあるくらし応援パック」

「手紙」は語る

人間は表現する動物だというが、
手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。
手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第三十回 堤 清二

植村鞆音

堤 清二さんには生涯で三度会っている。最初に会ったのは父と一緒で、池袋の西武デパートの「芥川賞・直木賞三十年記念展示」の会場でだった。わたしがまだサラリーマンになりたての頃。もう半世紀以上前のことになる。記憶は不確かだが、案内してくれたのは文藝春秋の香西 昇さんだったと思う。父の兄が三十年前に死んだ直木三十五という作家で、その弟である父と甥のわたしを関連イベントに誘ってくださったのだろう。

会場で父とわたしは主催者の代表である堤さんの挨拶をうけた。年譜を繰ってみると、かりにイベントが昭和四十年だったとすれば、堤さんは父康次郎の興した西武デパートに就職したほぼ十年後、取締役店長に就任した時期にあたる。

堤 清二さんほど多彩な貌(かお)をもつ経営者はそうざらにはいない。五人の女性との間に五男二女を持った父への反抗心が彼をいくつもの貌へ駆り立てたという説もある。東京大学在学中に日本共産党に入党、横瀬郁夫の名でオルグ活動※に精をだす。作家の寺内大吉に兄事し、辻井 喬(たかし)のペンネームで観念的な小説や詩を執筆、文壇におおきな足跡を残した。二流、三流といわれた西武百貨店を一流に引き上げ、西友、パルコ、西洋環境開発、無印食品などを含むセゾングループを育てた経営者としての功績はいわずもがなである。

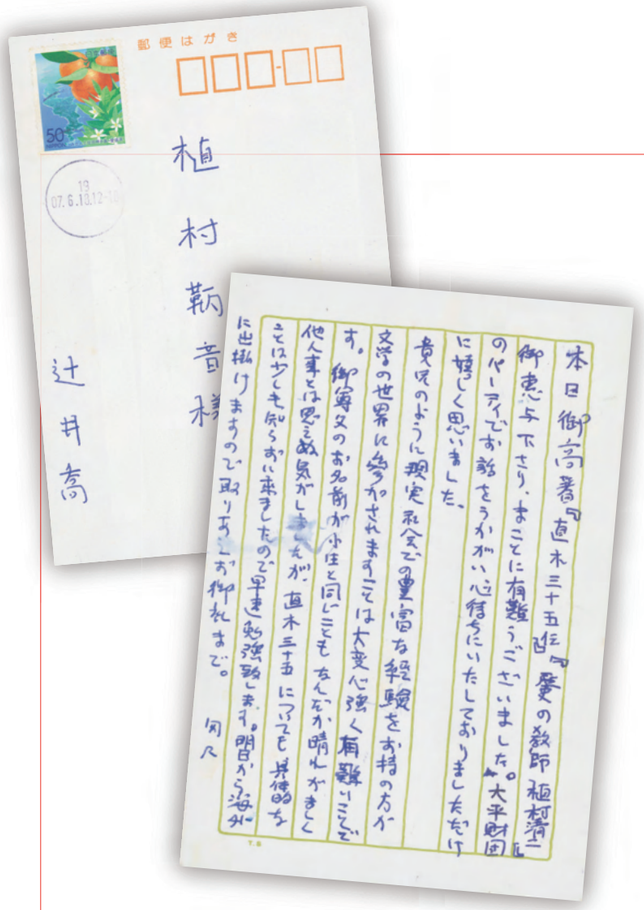
最初に挨拶を交わしたときの記憶はあまり鮮明ではない。わたしには経営者としての堤 清二、あるいは文学者としての辻井 喬を評価する能力がまだ備わっていなかった。

いまネットで彼の経歴を検索してみると、受賞した文学賞などは別として、そのつき合いの多彩さ、交友の深さに感服する。親交を結んだ経営者には清水 雅、氏家齊一郎、小佐野賢治、角川春樹の名前があがる。政治家では、池田勇人、佐藤栄作、田中角栄、大平正芳、麻生太郎、森 喜朗、文学では寺内大吉のほか、三島由紀夫、石原慎太郎、安部公房、ドナルド・キーン、城山三郎などの名前もあがる。

二度目に堤さんに会ったのは、それから数年後、赤坂プリンスホテルの宴会場でだった。その頃、康次郎夫人で母でもある操(みさお)さんの誕生日祝いのパーティが毎年同ホテルで開催され、わたしも二、二度それに参加したことがある。誰かに誘われたのだが、誰に誘われたのか、いま思い出せない。芸能人なども多数参加し華やかだった。康次郎さん亡き後のことで主催は清二さんであり、当然のことながら清二さんや当の操夫人の挨拶もあったはずだが、その内容もまったく覚えがない。小市民であるわたしは、母親の誕生日を日頃あまり縁もつき合いもない人を含め、かくもにぎにぎしく執り行う感性に驚嘆した。あれは、清二さんの母親に対する孝心の一端だったのだろうか。

元総理・大平正芳さんの二男裕(ひろし)さんが「大平正芳記念財団」を主宰されていた平成十九年のことである。大平正芳記念賞の授賞式が丸の内の日本工業倶楽部で開催され、式のあと引き続き行われたパーティの席で生まれて初めて堤 清二さんと言葉を交わした。大平 裕さんとは二十年に及ぶつき合いでいまだによくご馳走になったりするが、その日は授賞式のあと堤さんの記念スピーチがあり、その後も会場に残ってらした堤さんに裕さんがわたしを引き合わせてくださったのだろう。

わたしは小心のくせにへんに図々しいところがあり、その日も自分のことをあれこれ話したのではないかと思う。半世紀前のパーティの席で堤店長に挨拶を交わしたことからはじまり、サラリーマンを辞めて著述業を目指したことを語って、第一作の伯父の評伝『直木三十五伝』、第二作の父の評伝『歴史の教師 植村清二』を読んでほしいと申し出たに違いない。段ボールの底に残っていた堤 清二さんからの一通の葉書。わたしが送った二冊の本の受けとりである。



著者略歴
植村鞆音(うえむらともね) エッセイスト
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の岬』『気骨の人 城山三郎』など。

※団体が組織拡大のために、主に労働者・学生に対して、宣伝・勧誘活動で構成員にする行為、又はその勧誘者のこと。

堤 清二

実業家・作家・詩人
1927-2013

東京都出身。西武グループの創業者、堤 康次郎(やすじろう)の二男に生まれる。1951年東京大学経済学部を卒業したのち、衆議院議長だった父の秘書を経て、1954年に西武百貨店(現:西武)入社。1966年社長就任以降、無印良品、ファミリーマート、パルコ、西武百貨店、西友、ロフト、吉野家などの企業集団「セゾングループ」を一代で築き上げる。経営者としての活動の傍ら、辻井 喬の筆名で作家、詩人としても活躍。主な著作に、詩集「異邦人」、小説「いつもと同じ春」「虹の岬」、「父の肖像」などがある。2001年芸術選奨文部科学大臣賞、2006年日本芸術院賞恩賜賞を受賞。2012年文化功労者に選ばれる。異母弟は元西武鉄道会長の堤 義明。2013年逝去。

KPPグループ公式SNSのご紹介

KPPグループでは、現在3つのSNSアカウントを運営しています。これらはステークホルダーのみなさまへ、さまざまな角度から当社グループの取り組みをご紹介するもので、動画や画像を織り交ぜた幅広い情報を随時発信しています。下記では、それぞれのアカウントで掲載している内容について詳しく紹介していますので、是非一度ご覧ください。また、併せてチャンネル登録やフォローをお願いいたします。

- KPPグループ企業の特徴を知ることができる
- 最新の商品やサービス情報をいち早く入手できる
- 気になる情報を他のユーザーと共有できる
- 知りたい情報を視覚的に体感できる
- TSUNAGUの掲載内容がより深くわかる

YouTube

YouTubeでは、KPPグループの動画コンテンツを一堂に集め公開しています。国内、海外を問わずグループ企業の会社案内や営業ツールのほか、過去に開催した展示会の公演などバラエティ豊かな動画をご覧いただけます。ご興味のある方はぜひ一度ご覧ください。静止画ではなく動画にしてお伝えすることで、より当社グループへのご理解を深めていただけると考えております。

チャンネル登録はQRコードから ▶▶▶

「TSUNAGU」の特集記事でご紹介したペーパーアート作品の制作工程もご覧いただけます。

Twitter

2022年6月に新たに開設いたしました。コーポレートサイトに掲載する広報活動に加えて、当社が開催するイベントや協賛・後援、動画公開、CSR活動、採用に関する情報などについても投稿しています。そのほか当社が支援する団体や本誌「TSUNAGU」の取材などで関わりのあるアーティストの活動、紙にまつわるニュースなどをツイートする予定です。

フォローはQRコードまたはID検索から▶▶▶

https://twitter.com/Kppc1924
ID：kppc1924

Instagram

50号の付録「招き猫」についての投稿。

YouTubeやTwitterは当社グループ全体のアカウントですが、**Instagramは本誌「TSUNAGU」の専用アカウント**として運用しています。本アカウントは今年5月、2007年に発刊した第1号から通巻50号を迎えたことを記念して開設しました。最新号の発行に合わせ、掲載内容のご紹介や注目すべき紙文化について投稿しています。本誌と併せてぜひお楽しみください。

フォローはQRコードまたはID検索から▶▶▶

https://www.instagram.com/kpp.tsunagu/
ID：kpp.tsunagu

国際紙パルプ商事株式会社は持株会社制へ移行し、KPPグループホールディングス株式会社に社名変更しました

国際紙パルプ商事株式会社は10月1日付で会社分割（吸収分割）方式により持株会社制に移行しました。吸収分割会社は「KPPグループホールディングス株式会社」に商号を変更し、持株会社として上場を維持してまいります。また、承継会社は国際紙パルプ商事分割準備会社から国際紙パルプ商事株式会社に商号を変更し、これまでの紙パルプなど卸売事業の権利義務を承継してまいりますので、みなさまには引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今般の持株会社制への移行に先立つ一連の海外M&Aによって、海外売上比率が国内売上を逆転し、今後はこの比率が更に拡がる予定です。また当社グループにおける関連会社100社のうち9割の拠点が海外にあり、全従業員の8割以上が外国籍の社員で構成されています。このように2018年上場当時の事業規模とM&A実施後の現在の状況では事業セグメントも大きく変貌しており、グループ運営のあり方が新たな課題となっておりました。

今回の持株会社制への移行の目的は、経営の効率化と中核事業会社における責任体制の明確化にあります。また、グローバルガバナンスの強化とサステナビリティマネジメントの推進をスピード感をもって進めていきます。

紙パルプ業界はインターネットの普及によってペーパーレス化が進み、これまでの主力事業であったグラフィックメディア、即ち、新聞用紙、印刷用紙、筆記用紙、情報用紙の市場規模（米国、欧州、中国、日本）は既に総需要の約23%にまで縮小していますが、ペーパーレス化に対する過度な悲観論を捨て、需要が拡大しているパッケージ分野、衛生用紙分野、加工紙分野に焦点を当てた経営が求められます。

また、Eコマースの拡大による段ボールや、プラスチックから紙製品への代替や新型ウィルス対策としての衛生用紙など紙の主戦場は既に新しいステージに移行していると言っても過言ではありません。更に主要国におけるグラフィック需要の縮小は莫大な

人口ボーナスを抱えるインド、アフリカ諸国におけるパッケージや衛生用紙に対する需要の拡大で穴埋めされるものと思います。

KPPグループではデータマネージメントによる未来予測をグループ全体で共有し、国内における総合循環型事業による強みと、パッケージ事業やビジュアルコミュニケーション事業を推進する海外グループ会社によって、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

田辺 円　代表取締役 会長 兼 CEO

NEW STYLE BOOKSTORE -Vol.8-

コミュニケーションギャラリー

ふげん社

東京都目黒区下目黒5-3-12
TEL：03-6264-3665
営業時間：火～金 12:00－19:00
土・日 12:00－18:00
月曜・祝日定休

https://fugensha.jp/

▲創業70周年事業として、最前線で活躍する写真家の作品を集めた書籍「ShaShinMagazine」を出版。店舗またはHPから購入できます。

アートギャラリーとブックカフェが融合したコミュニティスポット

都心近郊にありながら緑が多く、おしゃれで洗練されたショップと閑静な住宅街が立ち並ぶ東京都目黒区。目黒通り沿いにある「ふげん社」は、自家焙煎コーヒーが人気のブックカフェと、写真を中心とした企画展を開催するアートギャラリーが同居する複合施設です。美術書や写真集を多く手掛けてきた1950年創業の渡辺美術印刷株式会社を母体として、2014年、東京・築地にオープンし、2020年に現在の場所に移転したそうです。社長を務める渡辺 薫さんに立ち上げの経緯をお伺いすると、「父から経営を引き継いだのが30年前。その頃から印刷業は斜陽化し、今でも毎日約200点の新刊が出版されている※ものの約半数が返本されています。本づくりに携わっているからこそ、1冊1冊に作家や編集者などさまざまな人々の魂が込められていることを知っているし、大量の本が廃棄されていることにやりきれなさを感じていたんです。印刷業の行く末が見通せない時代だからこそ、“人との出会い”をつくるというものづくりの原点に一度、立ち返ってみようと。つくり手と読者をはじめ、多様な人々が共有できるスペースを提供するために、このふげん社を立ち上げました」と話します。

ふげん社では、ギャラリーで開催される企画展以外にも、さまざまなイベントが催されています。写真家や作家などアーティストによるトークショーをはじめ、新刊本に関連したセミナー、ワークショップや落語会など、幅広い人々が交流するきっかけが用意されています。「作家がどんな気持ちでその写真を撮り、文章を書いたのか、実際に会って話を聞ける。作者と読者をつなぐ役割は、今まで以上に貴重なものになると思っています」（渡辺さん）。

1Fのカフェで提供されるのは、手廻しのロースターで豆を焙煎し、ネルドリップを使って抽出した自慢のコーヒー。「表参道にあり、惜しまれつつ閉店した喫茶の名店『大坊珈琲店』の店主・大坊勝次さんから直接指導を受けたお墨付きの焙煎士が淹れる深煎りコーヒーが人気です」（渡辺さん）。そのほかにも、丁寧に煮出したチャイ、吉祥寺にある人気のフランス菓子店「エーケーラボ」考案のオリジナルスイーツなど、すべてに妥協のないメニューが並びます。

コーヒーとともに楽しめる本は、すべて渡辺さんの選書によるもの。人文系やアートブックを中心に常時5,000冊ほどが棚に並び、気に入ったものはその場で購入することができます。「インターネットは便利なものだし素早く情報を得ることができるけど、心により深く残るのは紙の本だと思っています。本当に良い本に出会うことができれば、困難な状況にあってもそこにある言葉や写真とじっくり向き合うことで助けられることもあると思うんです。人生を生きるために必要なのはパンだけじゃなくて、一生をともにする1冊の本なのかもしれません。いい作品をたくさん揃えているので、美味しいコーヒーと紙の手触りを楽しみながら、最高の1冊を探してみてください」。

深いコーヒーの香りに包まれる店内で、人生の支えになる大切な本との出会いを楽しんでみませんか。

※総務省統計局によると、2019年の総出版数は71,903冊。

RICE INK®
輸送マイレージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

Eco・Press Binder
針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。

KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.
発行：コーポレート・コミュニケーション室
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL（03）3542-4166（代）
https://www.kpp-gr.com/

「TSUNAGU」Vol. 52 使用紙：OKトップコートマットN（127.9g/㎡／王子製紙株式会社）マット紙としての充分な紙厚とダル調の優れた印刷再現性とを兼ね備えたA2マットコート紙です。